トピックス

令和５年度の但馬牛種雄牛現場後代検定成績

毎年、基幹種雄牛を選抜するために産肉能力を推定する現場後代検定を実施している。令和５年度現場後代検定成績が判明し、「杉広土井（すぎひろどい）」と「悠森土井（ひさもりどい）」の２頭が基幹種雄牛に選抜され、６年度から供用が開始される。

内　容

現場後代検定法とは、種雄牛※の産子を実際に肥育した枝肉成績を基に種雄牛の産肉能力を推定する手法である。

検定には、種雄牛１頭につき繁殖雌牛 40 頭から生産した各種雄牛の産子の中から、６か月齢時の発育と体型の良好な個体を 16 頭選抜して用いる。それらを県内肥育農家２戸(8 頭)と畜産技術センター(8 頭)の３か所で肥育し枝肉成績を確認することで育種価※を算出し種雄牛の能力を推定する。

令和５年度対象の検定種雄牛は、「杉広土井」「悠森土井」「立力土井（たてりきどい）」「虎靖（とらやす）」「悠前土井（ひさまえどい）」「藤利土井（ふじとしどい）」「北虎直（きたとらなお）」であり、現場後代検定成績から算出した育種価をランク表記で示す(表)。

この結果を踏まえ検定種雄牛７頭と令和５年度の基幹種雄牛 12 頭の産肉能力を比較し、脂肪交雑、細かさ指数※及び MUFA※割合が優れた「杉広土井」と、脂肪交雑が特に優れていた「悠森土井」の２頭を令和６年度の基幹種雄牛に選抜した。

表　令和５年度の種雄牛現場後代検定成績

種雄牛名		杉広土井	悠森土井	立力土井	虎靖	悠前土井	藤利土井	北虎直
血統	父名	西杉土井	芳悠土井	照立土井	奥虎	芳悠土井	千代藤土井	奥虎
	母方祖父名	丸富土井	丸富土井	丸宮土井	宮弘波	丸宮土井	菊俊土井	丸富土井
育種価	枝肉重量	B	B	A	B	C	B	B
	ロース芯面積	A	C	D	B	D	A	B
	バラ厚	B	B	A	D	D	C	D
	皮下脂肪厚	B	C	C	D	A	B	A
	推定歩留	A	C	C	D	C	A	B
	脂肪交雑基準	A	A	D	B	A	A	D
	細かさ指数※	A	D	A	A	B	C	A
	MUFA※割合	A	D	C	C	B	D	D

A:上位 25%　B:上位 25～50%　C:下位 25～50%　D:下位 25%

今後の方針

選抜した２頭の種雄牛を含む 12 頭の基幹種雄牛を活用して、引き続き但馬牛改良のスピードアップと神戸ビーフ、但馬牛のブランド力の強化を図る。

※種雄牛：人工授精に使用する雄牛。現場後代検定実施中の種雄牛を「待機牛」、一般供用される種雄牛 12 頭を「基幹種雄牛」と呼ぶ。

※育種価：遺伝的能力を数値で示したもの。皮下脂肪厚は小さいほど、その他の形質は大きいほど能力が高い。

※細かさ指数：ロース芯に含まれる細かなサシの割合。

※MUFA：モノ不飽和脂肪酸の略。筋間脂肪の質の基準となり、脂肪の口溶けや舌触りの良さに関係する。

吉田　裕一（北部　畜産部）